

区の概況、現状と課題

平成 2 8 年 6 月

岡 山 市

区別計画策定に向けた検討シート（北区）

1 区の概況

人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は309,496人（H27国勢調査速報値）で本市の43.0%を占めており、4区の中で最大。平成22年国勢調査から2.3%増加。 ・中心市街地近郊部では人口の増加傾向が続いており、中心市街地も近年減少傾向に歯止めがかかっている。一方で、御津、建部地区をはじめ北部の中山間地域等では人口減少傾向にある。 ・人口密度は686.7人/k㎡であり、市平均の910.9人/k㎡を下回っている（H27国勢調査速報値）。中心市街地エリアでは8,032人/k㎡と特に高く、一方で、御津地区では85人/k㎡、建部地区では68人/k㎡と低い（H22国勢調査）。 ・高齢者人口比率は21.1%（H22国勢調査）であり、市平均よりも若干低いが、北部の中山間地域等では、既に高齢者人口比率が30%を超える地域がある。 ・年少人口比率は13.4%（H22国勢調査）と4区の中で最も低い。 ・一世帯当たりの人員数は2.12人（H27国勢調査速報値）と4区の中で最も少なく、単独世帯が4区の中で最も多い。 ・区民のうち外国人住民が占める割合は約2%で、4区の中でも特に高い。 ・昼間人口が夜間人口を約6万人上回り、4区の中で唯一流入超過。
地勢・都市環境	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17、19年の合併により、旧御津町、旧建部町エリアを含み、区域の面積は450.7k㎡と岡山市の約57%を占めており、4区の中で最も広い。 ・中心部は、県庁、市役所、裁判所等、国・県・市の各種行政機関が集中するとともに、JR岡山駅及び表町周辺には銀行・デパート・オフィスビル等の商業・業務機能が集積。 ・JR線岡山駅・岡山空港・山陽自動車道岡山ICなど広域交通網の拠点が集積。 ・中心部では、コミュニティサイクル（ももちやり）が整備されている。 ・緑豊かな中山間地域と清流旭川等に沿って開けた岡山平野からなり、中心部の近郊には半田山、京山、吉備の中山などの古くから生活に密着してきた里山がある。
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・古代吉備の昔から積み重ねられた豊かな歴史・文化資産があり、文化財数は本市の約75%を占めている。 ・中心部には岡山のまちのルーツとなる岡山城や岡山後楽園があり、外国人入場者数が近年増加傾向にある。 ・北西部には、造山古墳など全国屈指の大古墳、吉備津神社、吉備津彦神社、高松城跡や足守の陣屋町、近水園など古代吉備文化以来の歴史・文化遺産が数多く存在し、吉備路特有の豊かな歴史風土を形成。 ・吉備地区には、撫川城跡、庭瀬城跡や犬養木堂の生家などの歴史文化資産がある。 ・中心部では「吉備津彦の鬼退治の神話」に登場する「温羅（うら）」を由来とするうらじゃ踊りが1994年から開催。 ・宮内踊り、建部地域のはっぼね桜祭り、建部祭り、志呂神社御供、御津地域の獅子舞フェスタなどの地域の伝統行事が今に受け継がれている。
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・中心部には旭川の水辺や西川・枝川緑道公園があり、ホタルも見られる。 ・オオタカやムササビ、スイゲンゼニタナゴ、ナゴヤダルマガエルなど貴重な野生生物が生息し、各地域で保全活動が行われている。
特産品	<p>農産物：一宮・津高地区の桃やマスカットなどのぶどう、足守地区の温室メロン、牧石地区の黄にら、御津地区の山の芋、建部地区のヨーグルト</p> <p>水産物：旭川流域の鮎</p> <p>特産物：烏城彫り、烏城紬、撫川うちわ</p>

区別計画策定に向けた検討シート（北区）

公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心部には、オリエント美術館、県立美術館、岡山シンフォニーホール、岡山シ ティミュージアム等の文化・芸術施設や、岡山コンベンションセンター等の交流 施設が集積している。 ・ 県総合グラウンドは、ファジアーノ岡山のホームグラウンドであり、また、多く のスポーツ大会やスポーツ教室が開催されている。 ・ 岡山大学をはじめ、多くの高等教育機関が集積しており、学生の存在が地域に活 力をもたらしている。 ・ 北西部には岡山空港など広域交通拠点が整備され、岡山リサーチパークが立地。 ・ 北部には豊かな自然をいかした八幡温泉郷やたけべの森公園、環境学習センター 「めだかの学校」がある。
主な市の出先機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北区役所 ・ 2支所（御津、建部） ・ 5地域センター（一宮、津高、高松、吉備、足守） ・ 2福祉事務所（北区中央、北区北） ・ 2保健センター（北区中央、北区北） ・ 14公民館（旭、足守、一宮、大元、北、吉備、京山、岡輝、岡西、高松、建部 町、津高、御津、御南西）

区別計画策定に向けた検討シート（北区）

2 現状と課題

産業	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業別就業者数は、第3次産業の割合が約8割と、4区の中で最も高い。事業所の中で最も割合が高いのは卸売業・小売業となっている。 ・平成26年秋にJR岡山駅前にイオンモール岡山が出店したが、郊外部の大型店舗の増加により、商店街では空き店舗等が増加し、歩行者通行量は長期的に減少し続けている。 ・農業の後継者不足が問題となっており、中山間地域等では、耕作放棄地が増加し、多くの鳥獣被害が発生している。
	<p>【課題】</p> <p>①中心市街地の賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の魅力アップや、賑わい創出に向けた文化や食の交流イベント等を行政と民間が一体となって進める必要がある。 <p>②農業の担い手確保、有害鳥獣対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産の果樹をはじめ農業の新たな担い手を育成し、農村部における地域力の維持・強化を図る必要がある。 ・被害発生地域での有害鳥獣対策を近隣市町と連携しながら進め、被害の防止を図る必要がある。
交通	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかには、多くの通勤・通学者が集まることから、公共交通の充実、歩行者にやさしい空間づくりへのニーズが高い。また、放置自転車も依然として多く、自転車環境の向上へのニーズが高い。 ・中山間地域の中には、路線バスが廃止された公共交通不便地域が存在しており、買い物や日常生活に不便を感じている市民も多い。一部の地域ではコミュニティバスが運行されている。
	<p>【課題】</p> <p>①中心部における交通利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が集まる中心部では、公共交通のさらなる利便性を高めるとともに、自転車の利用環境の向上などを進め、まちなかの回遊性の向上につなげていく必要がある。 <p>②中山間地域等における生活交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域など公共交通不便地域では、買い物や通院などの日常生活に必要な交通手段を確保していく必要がある。
保健福祉、子育て	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区又は小学校区で健康市民おかやま21の推進体制があり、公民館等を拠点として地域の実情に合わせた健康づくりを行っている。 ・子どもの数は4区の中で最も多い。
	<p>【課題】</p> <p>①地域、職域等と連携した主体的な健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、働き盛りの年代に向けた健康づくり活動を強化するため、職域との連携を深めていく必要がある。 <p>②子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援など子育て環境の整備を進める必要がある。

区別計画策定に向けた検討シート（北区）

防災・防犯 (安全・安心)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、頻発している集中豪雨等により、市街地を貫流する旭川、笹ヶ瀬川、砂川、足守川流域等では浸水被害が発生している。また、丘陵部では、集中豪雨時等に土石流や、がけ崩れ災害が発生する恐れがある。中心市街地では、雨水排水の役割も担う下水道施設の老朽化が進んでいる。 ・通勤通学者が多いことから、地震等で交通機関が不通になった際の帰宅困難者への対応について、大規模集客施設等と協定を締結している。 ・自主防災会の組織数は140団体（H28年4月時点）であり、東区に次いで2番目に多いが、人口・世帯規模からは高いとは言えない。 ・区民千人当りの刑法犯認知件数は、16.43件と4区で最も多い。 ・市の面積の半分以上を占める北区には、用水路が多くある。 <p>【課題】</p> <p>①浸水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県による河川改修等を促進するとともに、中心市街地における下水道施設の計画的な改築・更新による雨水排水機能の強化、西部の市街地等での浸水対策等を進める必要がある。 <p>②地域の防災・防犯力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会組織率を高め、地域団体の活動を促進するとともに、単身者、学生、マンション居住者など地域団体に加入していない人たちへの地域の防災・防犯活動への参加促進、事業者との連携強化を進めていく必要がある。 <p>③用水路の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路への転落事故が発生しており、転落危険箇所を把握し、必要な安全対策を進めていく必要がある。
コミュニティ	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災・防犯活動等の中心となる町内会の加入率は、減少し続けており、平成27年6月時点で、81.2%であり、4区の中で最も低くなっている。 ・学生や単身者が多いことから居住者の移動が多く、一世帯当たりの人員数が4区の中で一番少ない。 ・岡山市の外国人市民の約6割にあたる約6千人が居住している。 <p>【課題】</p> <p>①地域コミュニティの維持、コミュニケーションの場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過疎化が進む中山間地域等では、固有の歴史・文化伝統の継承を含め、地域コミュニティの後継者を育成していくことが求められている。 ・特に、高齢化、過疎化が進む中山間地域では、コミュニティの希薄化や生活サービス機能の衰退への対応が必要となっている。 <p>②外国人市民との交流が活発な地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESDなど世代や国籍を超えた活動の継続により、外国人市民が参加しやすく、住民と交流できる地域づくりを進めていく必要がある。
特色ある 地域づくり	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心部の歴史・文化・芸術に関する施設等が集積したエリアでは、その魅力をいかした地域づくりが進められているが、多くの歴史・文化資源が地域住民にも十分に知られていない状況も見られる。 ・まちなかではNPOや市民団体が主体となった取組が進められており、特に西川緑道公園界隈では、岡山大学が市民、大学、行政による協働の場として西川アゴラを設置するなど、市民、NPO、事業者、大学との連携が進んでいる。 ・区づくり推進事業申請件数は、おおむね増加傾向にある。

区別計画策定に向けた検討シート（北区）

	<p>【課題】</p> <p>①地域資源の見直しによる魅力発見と活用</p> <ul style="list-style-type: none">・中山間地域では自然・農産物をいかした地域づくり、吉備路周辺や足守地区では歴史的遺産をいかした地域づくり、一宮、津高地区では桃やぶどうなどの特産品をいかした地域づくりなど、それぞれの個性をいかした地域づくりを進めていく必要がある。・地域の文化財や貴重な自然、スポーツ施設をいかした地域づくりにより、特に子どもに地域への愛着を持たせていく必要がある。 <p>②学生の力をいかした地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・大学と地域の交流を促進し、地域づくり活動、コミュニティ活動を活性化するなど、学生の力をいかした地域づくりを進めていく必要がある。
--	--

区別計画策定に向けた検討シート（中区）

1 区の概況

人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は146,265人（H27国勢調査速報値）と、本市の20.3%を占め、4区の中で3番目。平成22年国勢調査からの増加率2.8%は4区の中で最大。 ・人口密度は2,854.0人/k㎡と市平均の910.9人/k㎡を大きく上回り、4区の中で最大（H27国勢調査速報値）。 ・高齢者人口比率は21.2%（H22国勢調査）であり、市平均よりも若干低いが、高齢者人口比率が30%を超える地域もある。 ・年少人口比率は15.2%（H22国勢調査）で、市平均の14.3%を上回り、南区と並び4区の中で最大。 ・一世帯あたりの人員数は2.38人（H27国勢調査速報値）であり、単独世帯の割合は4区の中で2番目に多い。 ・夜間人口が昼間人口を約1万3千人上回る流出超過となっており、流出超過人数は4区の中で最大。 				
地勢・都市環境	<ul style="list-style-type: none"> ・中区は旭川の東、市のほぼ中央に位置し、面積は51.25k㎡と市全体に占める割合は6.5%で、4区の中では最小。 ・北には龍ノ口山、中央には操山の丘陵地、西には旭川、東にはその放水路である百間川、南部には児島湾に面した干拓による豊かな平野が広がる。 ・市街化区域面積が都市計画区域面積の48.2%（H24年3月末）を占めており、4区の中で最も高い。また、都市的土地利用が50%を超えており、宅地の占める割合が31.7%（H24年3月末）と、4区の中で最も高い。 ・市街地は大きく分けて、旧城下町の一部として古くから発展してきた東山・操山の西の旭川沿いの地域、操山より北で国道250号及び山陽本線に沿って東西に連たんする地域、操山より南の県道岡山牛窓線に沿って住宅開発が進められてきた地域とに分けられる。 ・区域の大部分が旭川と百間川とに挟まれ、操山以南の干拓地は海拔が低い。 ・南部には干拓地を中心に優良農地が広がり、米作を中心とした農業生産の重要な役割を担っている。 ・岡山港（高島地区）周辺や広域幹線道路沿線においては、工業・物流機能が集積。 ・JR山陽本線が東西に延び、区内には3駅があり、通勤、通学を始め多くの人に利用されている。 				
地域資源	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">歴史文化伝統</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺といった古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳などの古墳群や曹源寺、安住院等の歴史・文化遺産が存在。 ・津田永忠による倉田新田・沖新田開発と倉安川、百間川開削などの大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制群等の土木遺産が存在。 ・歴史的にみて、中区には岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきた。 ・児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統がある。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">自然景観</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山として、景観、生物多様性の面から貴重な緑地空間となっており、市民に憩いの空間を提供している。 ・旭川、百間川の水辺、倉安川、祇園用水など田園の中を網の目のように流れる水路群等は多様で豊かな水辺空間でもあり、日本固有種で、今や岡山と京都にのみ生息するアユモドキ（天然記念物）が生息する地域がある。 ・高島地域は市中心部から近い地域でありながら、市内でも有数のホテルの生息地となっている。 </td> </tr> </table>	歴史文化伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺といった古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳などの古墳群や曹源寺、安住院等の歴史・文化遺産が存在。 ・津田永忠による倉田新田・沖新田開発と倉安川、百間川開削などの大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制群等の土木遺産が存在。 ・歴史的にみて、中区には岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきた。 ・児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統がある。 	自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山として、景観、生物多様性の面から貴重な緑地空間となっており、市民に憩いの空間を提供している。 ・旭川、百間川の水辺、倉安川、祇園用水など田園の中を網の目のように流れる水路群等は多様で豊かな水辺空間でもあり、日本固有種で、今や岡山と京都にのみ生息するアユモドキ（天然記念物）が生息する地域がある。 ・高島地域は市中心部から近い地域でありながら、市内でも有数のホテルの生息地となっている。
歴史文化伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺といった古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳などの古墳群や曹源寺、安住院等の歴史・文化遺産が存在。 ・津田永忠による倉田新田・沖新田開発と倉安川、百間川開削などの大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制群等の土木遺産が存在。 ・歴史的にみて、中区には岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきた。 ・児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統がある。 				
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山として、景観、生物多様性の面から貴重な緑地空間となっており、市民に憩いの空間を提供している。 ・旭川、百間川の水辺、倉安川、祇園用水など田園の中を網の目のように流れる水路群等は多様で豊かな水辺空間でもあり、日本固有種で、今や岡山と京都にのみ生息するアユモドキ（天然記念物）が生息する地域がある。 ・高島地域は市中心部から近い地域でありながら、市内でも有数のホテルの生息地となっている。 				

区別計画策定に向けた検討シート（中区）

	特産品	農産物等：沢田の柿、酒米最高品種の雄町米、全国名水百選の一つ雄町の冷泉
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操山公園里山センターは、市民の自然体験活動の拠点となっている。 ・ 岡山の海の玄関である新岡山港（高島地区）は岡山と小豆島とを結ぶフェリーの発着口として利用されている。 ・ 大学2校、高等学校6校があり、東の文教地区としての機能を担っている。
主な市の出先機関		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中区役所 ・ 1地域センター（富山） ・ 中区福祉事務所 ・ 中区保健センター ・ 6公民館（中央、東、操南、富山、高島、東山）

区別計画策定に向けた検討シート（中区）

2 現状と課題

交通	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査によると、「バスや鉄道などの公共交通の充実」に対する満足度が4区の中では最も高い。 ・一方で、都心部に向かう橋の近くや県道岡山牛窓線など、片側1車線の一部幹線道路等では、通勤時に慢性的な渋滞が発生しており、バスの遅れなども生じている。 ・自転車利用環境向上への市民ニーズが高い。 <p>【課題】</p> <p>①交通利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤時の渋滞等を解消し、公共交通の利便性を向上させるため、外環状・中環状線等の幹線道路等の整備を推進していく必要がある。
保健福祉、子育て	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率は市平均より低い、「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」の割合は4区の中で最も高い。 ・高齢化率が高い地域の中には、コミュニティのつながりを深め、高齢者を地域で支えるため、活発に取り組んでいる地域がある。 ・子どもの割合は南区と並び最も高く、合計特殊出生率は4区の中で最も高い。 ・各中学校や小学校区単位で健康市民おかやま21の推進体制があり、特に学校と連携して食育などの普及啓発活動を推進している。 <p>【課題】</p> <p>①高齢者世帯を地域で支える仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高く単身高齢者が多い地域を中心に、高齢者を地域で見守る仕組みづくりを推進していく必要がある。 <p>②子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援など子育て環境の整備を進める必要がある。 <p>③地域における健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携した普及活動が進む中で、子どもの保護者などの幅広い世代への健康づくりに取組を広げる必要がある。
防災・防犯 (安全・安心)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操山以南の江戸時代の新田開発によって形成された地域は土地が低く、宅地化の進行により、水田が持つ保水機能が低下したこともあり、近年頻発する集中豪雨時に、浸水被害が発生する地域も新たに生じている。 ・想定される南海トラフ巨大地震等による津波の発生時には、操山以南の海拔ゼロメートル地帯を中心に多くの被害が発生する恐れがある。 ・住宅密集地域では、道路が狭く、区内全域に用水路が多くある。

区別計画策定に向けた検討シート（中区）

	<p>【課題】</p> <p>①地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ巨大地震等に対し、自主防災組織率の向上を図り、津波から避難できる体制を整えておくとともに、高齢化の進んだ地域では、災害時における要配慮者の支援等を進める必要がある。 <p>②浸水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉安川の堤防護岸整備や河床掘削等の河川改修を進めるとともに、倉安川以南の市街地等で浸水対策を進めていく必要がある。 <p>③用水路の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路への転落事故が発生しており、転落危険箇所を把握し、必要な安全対策を進めていく必要がある。 <p>④地域防犯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防犯活動の充実に向けて、防犯ボランティア団体への情報提供や研修などの支援を進める必要がある。
コミュニティ	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の加入率は、高齢化の進展やマンション居住世帯の増加などにより減少傾向にあり、中区の加入率は81.3%で、市平均を下回っている。 ・高度経済成長期の開発された団地等、近年高齢化が急速に進んだ地域では、自治会組織や団体のメンバーの高齢化が進んでいる。 <p>【課題】</p> <p>①地域コミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のきずなを強め、協働意識を高めていくため、文化・スポーツイベントの開催や地域の伝統行事などの地域交流の場を増やし、参加者の増加を図るとともに、特に若年層の地域活動への参加を促していく必要がある。
特色ある 地域づくり	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操山北麓の沢田地区では地域ブランドとして有名な「沢田の柿」を生産しており、収穫時には「沢田の柿まつり」を開催し、沢田の柿の地産地消の推進とイベントを通じた地域振興を図っている。 ・酒米の最高品種である雄町米については、ご当地グルメを作り、地域イベントで販売するなどのPR活動が取り組まれている。 ・区内の大学（2校）と地域とが連携して、「認知症カフェ」や、ESD活動として里山再生活動などを実施している。また、学生と地域住民とが協働で、学区内避難路の危険箇所の点検や災害避難マップを作成している。 <p>【課題】</p> <p>①地域資源の活用と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の自然活動の拠点である操山公園里山センターや、曹源寺をはじめとする歴史文化遺産、地域特産物、点字ブロックの発祥の地などの地域資源を活用し、地域を活性化していくとともに、それらの情報を広く発信していく必要がある。 <p>②協働による地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会組織、NPO、企業などが連携しながら地域づくりに取り組んでおり、このような多様な主体との協働の取組を拡大していく必要がある。 ・学生など若者の地域活動への「参加」や、学校と自治会組織との「連携」を進めるなど、若者の力をいかした地域づくりを進めていくことが期待される。

区別計画策定に向けた検討シート（東区）

1 区の概況

人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は95,604人（H27国勢調査速報値）で本市の13.3%を占めており、4区の中で最小。平成22年国勢調査から1.4%減少しており、4区の中で唯一、人口減少期に突入。 ・人口密度は595.6人/km²と4区の中で最も低い（H27国勢調査速報値）。 ・高齢者人口比率は25.2%（H22年国勢調査）と4区の中で最も高く、今後大きく上昇することが見込まれている。 ・一方、一世帯当たりの人員数は、2.65人（H27国勢調査速報値）と4区の中で最も多く、単独世帯は4区の中で最も少ない。 	
地勢・都市環境	<ul style="list-style-type: none"> ・東区は本市南東部に位置しており、面積は160.53km²と本市の約20%を占める。 ・区域を一級河川の吉井川が貫流し、中央には芥子山、南は児島湾、瀬戸内海に面し、沖合には市内唯一の有人離島である犬島がある。 ・吉井川、百間川の河口一帯には、干拓による広大で豊かな農地が広がり、良好な自然景観を形成。また、児島湾や瀬戸内海沿岸、吉井川等の貴重な水辺環境が形成されている。 ・土地利用状況では、田、畑の占める割合が高い。 ・西大寺地域は、東備地域の中心地であり、吉井川河口の港町として、また西大寺観音院の門前町として発展した経緯から、商業機能等が集積。 ・臨海部や新産業ゾーン、瀬戸地域や上道地域に工場が集積し、国道250号の沿道には在来型軽工業や船舶プロペラ、電気機械器具製造の大型工場、瀬戸地区にはビール工場などが立地し、本市製造業の中核を担っている。 ・東区役所や西大寺緑花公園に隣接して複合商業施設があり、多くの人に利用されている。県道岡山牛窓線、上道地区において市街化が進展。 ・瀬戸地域は、平成19年の合併により区域に加わり、山陽自動車道へのアクセス性から数多くの企業が進出し、県南都市圏の近郊住宅地としても発展。 ・道路は、外環状線の整備を進めているほか、瀬戸地域では、山陽自動車道と接続する美作岡山道路瀬戸ICを整備中。 	
地域資源	歴史文化伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された西大寺会陽（はだかまつり）は、500年以上の歴史を誇り、約9千人のまわし姿の男たちにより宝木（しんぎ）の争奪戦を繰り広げる。 ・西大寺の門前町として栄えてきた五福通りの歴史的建物群や、国指定史跡の大廻小廻山城跡をはじめ万富東大寺瓦窯跡、西大寺観音院、藤井の宿などの歴史・文化的資産が数多く残されている。 ・津田永忠による幸島新田・沖新田開発の歴史に残る業績があり、また、乙子城跡、沼城跡など、備前国の近世社会への扉を開いた宇喜多氏ゆかりの遺跡が存在。
	自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・犬島は、犬島精練所美術館や瀬戸内国際芸術祭を契機に観光地として脚光をあびている。 ・五福通り周辺は、伝統的な建造物群によるレトロな景観が評価され、映画やドラマのロケ地となっている。 ・豊地区のダルマガエル、瀬戸地区のアユモドキ、大宮地区のホテルなど、希少な生物が生息し、各地域で保全活動が行われている。
	特産品	<p>農産物：上道・古都地区のニューピオーネ、雄神地区のあたご梨、上南地区のいちご、瀬戸地区の太秋柿・桃</p> <p>海産物：朝日・九幡地区の海苔</p>

区別計画策定に向けた検討シート（東区）

公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域の中心部に整備された東区役所、東消防署、東水道センターに隣接して、西大寺緑花公園と体験学習施設である百花プラザがある。 ・ 上道地域には、農業公園として整備された三徳園がある。 ・ 瀬戸地域には、野球場やテニスコートを備えた瀬戸町総合運動公園がある。 ・ 犬島には、自然の家、キャンプ場、海水浴場がある。
主な市の出先機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東区役所 ・ 1支所（瀬戸） ・ 1地域センター（上道） ・ 東区福祉事務所 ・ 東区保健センター ・ 7公民館（旭東、西大寺、山南、上道、上南、瀬戸、万富）

区別計画策定に向けた検討シート（東区）

2 現状と課題

産業	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業別就業者数は、第1次産業と第2次産業就業者が4区の中では最も高い。 ・製造品出荷額は、4区の中で最も高く、内訳をみると、飲料・たばこ・飼料製造業が多い。 ・ぶどう、桃、なし、いちごなど、果樹栽培で高付加価値型農業が行われている。 ・市唯一の有人離島である犬島は、瀬戸内国際芸術祭の開催により文化・芸術の島として注目が集まるとともに、西大寺会陽（はだかまつり）には、外国人を含む多くの観光客が訪れ、海外マスメディアからの取材も多い。 <p>【課題】</p> <p>①優位性をいかした企業誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美作岡山道路・瀬戸ICの整備を契機とした企業誘致を進める必要がある。 <p>②農業の担い手の育成、有害鳥獣対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者や後継者の確保など、農業の担い手の育成を図る必要がある。 ・近隣市町との連携による有害鳥獣対策を進め、被害の防止を図る必要がある。 <p>③地域資源の活用・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内国際芸術祭の舞台の一つとなる犬島をはじめ、地域の様々な観光資源を活用し、その魅力を発信していく必要がある。 ・西大寺会陽（はだかまつり）を活用した魅力と賑わいづくりを進め、海外からの誘客も念頭に入れた効果的な情報発信を行う必要がある。
交通	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスが、西大寺バスステーションを起点に岡山・瀬戸内市方面に走っているほか、岡山から上道・瀬戸方面に走っている。 ・自家用車での移動には便利な反面、一部に公共交通不便地域がある。市民意識調査においても、東区は外出する際に自家用車を利用する割合が高く、また公共交通機関に対する満足度は低い。 <p>【課題】</p> <p>①交通利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市中心部へのアクセス集中による渋滞対策や、公共交通の利便性向上が求められている。 <p>②生活交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率がさらに高まることが予想され、買物や通院などの日常生活に必要な交通手段を確保していく必要がある。
保健福祉、子育て	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が30%を超える地域が存在する。 ・病院・診療所数は本市の約10%、病床数は7.9%と、4区の中で最も少ない。 ・合計特殊出生率は1.377（H25）と、4区の中で最も低い。 ・健康市民おかやま21東区地域推進会議が健康づくり活動を進めている。歯と口腔の健康づくりを重点的に取り組んできたが、さらに運動を通じた健康づくりに取り組むなど活動の幅を広げている。 <p>【課題】</p> <p>①高齢者の支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単身高齢者世帯の割合は低いものの、高齢化の進んだ地域もあることから、地域における高齢者の生活支援等が必要となってくる。

区別計画策定に向けた検討シート（東区）

	<p>②子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援など子育て環境の整備を進める必要がある。 <p>③地域全体での健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区全域だけでなく、中学校区単位での組織づくりにより、さらに地域の特性に合わせた健康づくりを進める必要がある。
防災・防犯 (安全・安心)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂川流域では改修工事が進んでいないため、大雨時には浸水被害を受けやすい。 ・東南部の瀬戸内海沿岸部では、台風時には高潮災害を受けやすい特徴がある。 ・自主防災会及び婦人防火クラブの数は、4区の中で最も多い。 ・区民千人当たりの刑法犯認知件数は7.5件、交通事故発生件数は7.47件（H26）であり、それぞれ4区の中で最も少ない。 ・干拓地に広大な農地が広がり、用水路が多くある。
	<p>【課題】</p> <p>①津波、浸水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部の干拓地では、津波の浸水被害が起こる可能性が指摘されており、吉井川の早期改修や沿岸部の高潮対策を促進する必要がある。 ・砂川の早期改修の促進や瀬戸地域の市街地等での浸水対策を進める必要がある。 <p>②安全・安心な地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災・防犯の担い手である地域組織（町内会、安全・安心ネットワーク、自主防災会等）による活動をいかに維持・強化していくかが課題となっている。 <p>③用水路の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路への転落事故が発生しており、転落危険箇所を把握し、必要な安全対策を進めていく必要がある。
コミュニティ	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会加入率は、4区の中で最も高い84.8%（H27）であるが、近年減少傾向にある。
	<p>【課題】</p> <p>①世代を超えた交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子化の進み、町内会への加入率が下がりつつある中で、世代を超えた交流の場による地域コミュニティの活性化を図ることが必要である。 <p>②地域活動、コミュニティの維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な年代が地域活動に参加しやすい環境づくりを進めることで、持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。
特色ある 地域づくり	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西大寺地域中心市街地での「西大寺冬フェスティバル」「西大寺朝市」、瀬戸地域での「宗堂さくらまつり」等、地域活性化イベントが地元ぐるみで行われている。また、「西大寺五福通りレトロ・マルシェ」が新しく開催され、好評を博している。 ・東区では、伝統的にスポーツ・文化活動が盛んで、東区体育協会連合会を中心としたスポーツ大会や「郷土芸能フェスティバル」等の発表会が、多数の区民参加のもと毎年開催されている。 ・平成24年から区民主導で「おかやま西大寺マラソン」が開催され、多くのランナーが参加する大会となっている。

区別計画策定に向けた検討シート（東区）

	<p>【課題】</p> <p>①地域の歴史・伝統・文化の継承と魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none">・西大寺会陽等の伝統行事をはじめ、様々な地域イベントを開催しているが、新たな人の呼び込みにはさらなる工夫が必要である。今後は、地域の活動を担う人材の育成により、活動を継続させるとともに、効果的な情報発信により、賑わいのあるまちづくりを進める必要がある。・門前町の面影を色濃く残す五福通りのまちなみの保存と活用方法を検討する必要がある。 <p>②元気な新拠点の活用</p> <ul style="list-style-type: none">・カネボウ跡地に整備された「元気な新拠点」を地域の交流拠点として活用していく必要がある。 <p>③ファジアーノ岡山との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ファジアーノ岡山の練習拠点ともなっている政田サッカー場が立地しており、ファジアーノと連携した地域スポーツの振興が期待されている。
--	--

区別計画策定に向けた検討シート（南区）

1 区の概況

人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は168,219人（H27国勢調査速報値）で本市の23.4%を占め、4区の中で2番目に多い。平成22年国勢調査から0.3%増加にとどまっている。 ・人口密度は1,319.6人/k㎡であり、市平均の910.9人/k㎡を上回り、4区の中で2番目に多い（H27国勢調査速報値）。 ・年少人口比率は15.2%（H22国勢調査）と中区と並び4区の中で最も高い。 ・高齢者人口比率は20.5%であり、4区の中で最も低い。 ・一世帯当たりの人員数は2.57人（H27国勢調査速報値）で4区の中で2番目に多い。 ・夫婦と子からなる世帯は32.6%（H22国勢調査）で、4区の中で最も高い。 	
地勢・都市環境	<ul style="list-style-type: none"> ・南区は市の南部に位置し、平成17年の合併により、旧灘崎町エリアを含み、区域の面積は127.48k㎡と岡山市の約16%を占めている。 ・旭川右岸の干拓地と児島半島の丘陵地が、児島湾と児島湖を囲むように位置している。東には旭川が児島湾に注ぎ、中央に笹ヶ瀬川、南部に倉敷川が日本最大の人造湖（ダム湖を除く）である児島湖に注いでいる。 ・区域の過半が江戸時代以降の干拓地であり、南部には岡山市の農業の中心をなす広大な穀倉地帯が広がっている。経営耕地面積は4区の中で最も広く、その中でも田の割合が4区中最大。 ・岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地している。 ・道路は、東西に国道2号バイパス、南北に国道30号が整備されている。また、県道岡山児島線、外環状線の整備を推進中。 ・鉄道は、区北部を北から西に抜けるJR瀬戸大橋線が倉敷市児島に、区南部を西から南に抜けるJR宇野線が玉野市宇野に接続。 	
地域資源	歴史文化伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・興除、藤田、灘崎地域には、新田開発の歴史を今に伝える樋門、堤防などの農業土木遺産が多くある。 ・彦崎地区には、国史跡にも指定され西日本有数の縄文貝塚である彦崎貝塚がある。
	自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海国立公園内にある金甲山、貝殻山からは瀬戸内の海を一望できるほか、児島湖及び隣接する阿部池は西日本では珍しい国の天然記念物である真雁（まが）んが越冬するなど、西日本でも有数の水鳥の観察地となっている。 ・迫川地区には、県南部最大級の桜である県天然記念物の大山桜（おおやまざくら）がある。 ・児島湖周辺では市民の手により河津桜（かわづざくら）が植樹されている。 ・箕島地区や迫川地区では、地域住民がホタルの生息を目指した活動を行っている。
	特産品	<p>農産物：干拓地区の米麦、藤田地域のレタス、灘崎地域の千両なす</p> <p>海産物：小串地区の海苔</p>
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・浦安総合公園、灘崎町総合公園、山田グリーンパークなど、大規模なスポーツ施設があり、身近にスポーツを楽しむ環境が整っている。 ・臨港グリーンアベニューや、浦安緑道、妹尾緑道、十一番川緑地など、暮らしに潤いを与える緑道公園がある。 ・岡南地区には、野菜、果物、鮮魚などを供給する中央卸売市場、花きを供給する地方卸売市場がある。 ・灘崎地区には、いちご狩りやぶどう狩りの体験や、地域で栽培された農産物を購入できるロードサイドマーケットがあるサウスヴィレッジが整備されている。 ・浦安地区には、小型機専用の飛行場である岡南飛行場がある。

区別計画策定に向けた検討シート（南区）

主な市の出先機関	<ul style="list-style-type: none">・ 南区役所・ 灘崎支所・ 6 地域センター（妹尾、福田、興除、藤田、児島、福浜）・ 2 福祉事務所（南区西、南区南）・ 2 保健センター（南区西、南区南）・ 10 公民館（灘崎、福田、南、興除、芳田、福浜、藤田、妹尾、光南台、岡南）
-----------------	--

区別計画策定に向けた検討シート（南区）

2 現状と課題

産業	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業別就業者数は、第2次産業の割合が4区の中では2番目に高い。 ・南部に広がる広大な干拓地では米麦を中心に、藤田地域のレタス、灘崎地域の千両なすなど市場価値が高く、高値で取引されている品目もある。 ・農業者の状況については、自ら創意工夫し、経営を進めようとする認定農業者数は307経営体で市全体に占める割合は46.2%、新規就農者は、平成25年から27年までの間に市全体の74人のうち、南区が23人を占めた。 ・近年、児島半島地域や灘崎地域においては、イノシシ等による農作物被害が発生している。
	<p>【課題】</p> <p>①農業の担い手確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区の認定農業者数や新規就農者数は4区の中では最も割合が高いが、南区においても他区と同様、農業後継者が不足し、農家戸数が年々減少し担い手の確保と遊休農地の増加が課題となっている。 <p>②広域的な鳥獣被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等による農産物への被害を防止するため、近隣市町との連携による対策が求められている。
交通	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査において、南区は外出する際に自家用車を利用する割合が高く、また公共交通機関に対する満足度は低い。 ・公共交通が身近にないなど、日常生活における移動が不便な地域が存在する。
	<p>【課題】</p> <p>①交通利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通量に対して車線数が不足している路線が見受けられる。 <p>②生活交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との協議が進んでいる迫川地区をはじめ、公共交通不便地域において、買物や通院などの日常生活に必要な交通手段を確保していく必要がある。
保健福祉、 子育て	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21の推進体制があり、地元企業との連携や高血圧対策を重点的に取り組むなど特色のある活動を行っている。 ・子どもの割合は中区と並び最も高い。
	<p>【課題】</p> <p>①健康づくりの体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じた健康づくりをさらに進めるため、中学校区や小学校区単位での組織づくりを行う必要がある。 <p>②子育て環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援など子育て環境の整備を進める必要がある。

区別計画策定に向けた検討シート（南区）

防災・防犯 (安全・安心)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干拓地という特性から低地が多く、宅地化が進んだことから田の保水調整機能も弱まり、近年の台風の大型化や局地的集中豪雨により、岡南地域、灘崎地域では内水はん濫による浸水被害が発生しており、児島半島地域では高潮被害が懸念されている。 ・灘崎地域、児島半島地域の山間部では、土砂災害の発生が懸念されている。 ・想定される南海トラフ巨大地震においても、津波等により大きな被害を受ける可能性が高いと予想されている。 ・干拓地に広大な農地が広がり、用水路が多くある。
	<p>【課題】</p> <p>①津波、浸水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査においては、防災対策の強化が高いポイントを得ており、高潮等による浸水被害が懸念される地域については、護岸、高潮堤防の整備が望まれる。 ・市街地等での浸水対策を進める必要がある。 <p>②自主防災組織率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内地域によって自主防災組織率に大きな差があるため、組織率の低い地域への対応が必要となっている。 <p>③用水路の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路への転落事故が発生しており、転落危険箇所を把握し、必要な安全対策を進めていく必要がある。
コミュニティ	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した市民サービス拠点を有し、市民意識調査においても市民サービス拠点に対する住民の満足度は高い。 ・南区の町内会加入率は83.5%であり、東区に次いで高い。 ・地域住民による清掃活動や不法投棄監視など、地域ぐるみで環境保全活動が行われている。
	<p>【課題】</p> <p>①町内会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会などの地域コミュニティは、災害が起こった際の重要な役割を持つ「共助」を担う単位でもあることから、その活動の活性化を支援していく必要がある。
特色ある 地域づくり	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災リーダー育成、耕作放棄地の復元を兼ねてのイノシシ対策など、地域課題を解決するための取組がなされている。 ・県の天然記念物である大山桜や、用水路を活用した川舟体験など、地域の資源を活かしたイベントにより、世代間の交流を深め、地域の魅力を発信する取組がある。 ・音楽によるまちづくりや、地域の物語の創作など、地域の新たな魅力づくりや人のつながりを深める取組が行われている。
	<p>【課題】</p> <p>①地域間の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が相互にどのような活動をしているかを把握できていないため、地域での活動内容にばらつきがある可能性がある。情報を共有し、地域づくりの活動をさらに活性化させる必要がある。

